

特集「教育実習の先生編②」

今

号も、引き続き教育実習生からのメッセージです！

今まさに、大学という学問の最先端の現場で「研究」をしている方の「生の声」をお聞きましょう！

は

じめまして、**生物科の教育実習生**です。

今回は私が大学でどのような研究を行っているかを紹介したいと思います。

まずはじめに、私は理学部の生物学科に所属しています。一口に生物学とは言っても4年間で、生態学、生理学、細胞生物学、発生学、遺伝学、形態学、分類学、進化学など非常に多岐に渡る分野を勉強します。

私はこの中でも植物の細胞生物学に注目した分野で研究を行っています。具体的なテーマ名は、「イネ類の根のアポプラストバリアに対して植物ホルモンであるアブシシン酸がもたらす影響」です。

少し分かりにくい語があるので詳しく説明すると、アポプラストバリアとは植物の根において、土壤中に水分が漏れ出ることや、土壌から有害な物質を取り込むことなどを防いだりする機構のことです。発芽直後のイネをアブシシン酸を含んだ培地で生育した根と含まない培地で生育した根では構造にどのような違いが出るのかを顕微鏡で観察し、またその違いが出るアブシシン酸の濃度や生育日数は幾つになるのか等を様々な条件で何度も何度も、繰り返し実験を行うことで明らかにしていこうという研究テーマです。

「植物ホルモン」などは、理系の専門の生物で扱う単元ですが、興味が出てきた人は、生物講義室に「テイツ・サイガー 植物生理学」という専門書がありますので、ぜひ手に取ってみたいはいかがでしょうか？

課題研究中間発表会 無事終了！

9月18日(金)4限5限は1,2年生合同で課題研究中間発表会を実施しました。コロナ禍での新発表形式(デジタルポスター発表)は、思いの外スムーズに進み、質疑応答も活発に行われました。2年生にとっては今後の研究の方向性(科学者コース or 技術者コース)を決めなければならないですし、1年生にとっては初めて経験するポスター発表を経て、自分たちの来年度の研究テーマを考える時期も近付いてきました。

